

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278100223		
法人名	株式会社 オハナ		
事業所名	三ヶ日グループホーム (3ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市北区三ヶ日町都筑2922-2		
自己評価作成日	平成24年3月20日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 gokouhyou.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2278100223&SCD=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一人ひとりの人生が輝くように!」との理念のもと、利用者様が主となって生活が送れるような支援を心掛けています。利用者様の生活を第一に考え、介護する・される関係ではなくその人らしい生活が安心安全に送れるよう支援しています。また地域との関わりを大切に、各関係機関や地域の社会資源の理解のもと良い関係が築けています。職員に於いては介護経験豊富な者が多く、認知症高齢者の介護の基本について熟知し、実践できています。施設内の会議においても利用者様本位の生活が送れるよう、職員間で話し合い、より良いサービスが提供できるよう努めています。レクリエーションでは畑作りや花を育てたりと自然と多く触れる機会を設け「三ヶ日」という地域性を生かした生活を送って頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜名湖の北の玄関口となる東名三ヶ日インターにほど近く、良質な蜜柑産地として知られる旧三ヶ日町の東部に事業所は位置している。浜名湖の内湖である猪鼻湖を間近にした小高い丘の上に3ユニットが配されていて、池坊華道の師範であったという利用者の手になる生け花が、玄関で出迎えてくれている。定期的に行われている外食ツアーは、利用者が心待ちにしている、よそ行きのおしゃれ着をまとい、お化粧を施してウキウキした気持ちで外出・外食を楽しんでいる。また調査訪問時には、リズムカルな響とともに主婦を取り戻した自信さえ感じられる利用者の包丁捌ぎに遭遇した。共用空間では利用者職員が一体となった明るさがみなぎっていて、こちらも元気がもらえるような気持ちになる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりが輝くように」の理念のもとに利用者に様一人ひとりに合った個別ケアを行っている。	開設当初からの理念は玄関に掲げられている。利用者の一人から指導を受け、他の利用者と職員で立派な畑が出来上がり、皆で収穫の喜びも共有できた。指導にあった利用者は機能的にはやや低下していたが、このことを契機に元気になり輝きを取り戻している。管理者は理念が活かされた実感しているという。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内で行われる祭りなどのイベントには積極的に参加した、グループホームで開催する祭りなどにも参加していただき交流を図っている。	自治会には加入していて、町内の祭りにも招待があり、利用者と共に参加している。事業所の夏まつりにも地域住民が参加し、盆踊りのリードやバザーの売上にも協力してもらっている。集まったお金は東日本大震災への義援金として有効に役立てることができていて、地域との協働関係ができつつあることが視えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方には運営推進会議を通して伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やイベントなどの取り組みを報告したり、離設等の問題について一緒に検討している。	運営推進会議は3ヶ月に1回と現状は少ないが、以前の2ヶ月に1回に戻したいと考えている。参加者は自治会長、民生委員、介護相談員、家族代表、行政からは自治センター課長が参加している。自治会長からは「事業所便りを回覧で廻したら」との協力的な意見ももらっている。	貴重な意見を聞く機会でもあり、2ヶ月に1回の運営推進会議の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員の訪問があった際にはホームの取り組みを伝えている。	運営推進会議の議事録は窓口には届けてはいないが、他の書類関係は区役所に届けている。相談事は市役所本庁の該当部局に出向き、グループホーム担当者とは相談できる関係ができている。月に1度は介護相談員の訪問も受入れている。	運営推進会議の議事録を区の窓口へ届け、協力関係を築かれることを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施設は緊急時以外は行わず、利用者様が自由に生き生きと生活できる取り組んでいる。	「身体拘束ゼロ宣言」をしていて、玄関の施設はしていない。また、掃きだし窓からも自由に出入りできる状態にある。スピーチロック、行動抑制が職員に見られた時は、その都度注意をし指導している。職員会議でも話し合い共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外傷など変わった点が、あればすぐナースや施設長に報告している。		

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用する際は家族や関係者と話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には実際のグループホームでの取り組みの様子を伝えたり、医療面での連携や限界についてもきちんと説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際に、直接話を聞いたり年に数回家族会を開いて意見交換している。	家族の訪問は多く毎日面会に来る家族もいる。職員は家族への声掛けを頻繁にし、意見が出やすい雰囲気づくりに努めている。家族からは「生活面の残存機能を活かした事柄を積極的にやらせてほしい」との意見ももらえている。家族会は年1回食事をともにしながら開催し、ホーム便りも毎月送っている。	運営推進会議には家族代表が参加しているが、推進会議議事録も送って家族同士の情報の共有化が図られることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議で意見交換をしている。	職員会議は毎月3ユニット合同で開催されている。各ユニット会議も毎月開催されていて、安全面を考えた施設に関する意見もでている。職員と管理者は言い易い関係ができていて、意見の吸い上げは出来ていると感じている。夏まつりでの東日本大震災支援策も職員からの発案で取り組むことができ、成果に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要と認められた残業にはきちんと手当が支払われ、無意味なサービス残業はない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はないが、法人グループ内では月2回交流会が持たれている。		

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや訴えを良く傾聴したり表情から読み取るなど、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時の面談でしっかりと要望を聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極めたうえでグループホームに適しているか検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるの上下関係を作らずに同じ生活者としての関係作りに努める。利用者様とともに色々行って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の存在の重要性を理解し合ったうえでともに協力しながらケアをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には今まで自宅で使用していた馴染みのものを持ち込んでいただき、安心して生活が送れるように支援している。	若干ではあるが友人の面会もある。地域の美容院が出張で来てくれることもあるが、理美容院利用の支援は職員が大半を行っている。正月には茶道師範であった利用者が立てたお茶を皆で楽しむなど、趣味や興味への支援が続けられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を見極めながら、良好な関係作りに常に努めている。		

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り相談に乗ってサポートしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴を参考にし、本人からの直接の訴えに沿った支援を行っている。	「誕生日にはラーメン餃子をたのむ」など、多少栄養バランスを心配しながらも、本人の希望に沿った支援に努めている。また、日頃の会話に注意深く傾聴した結果、家族も知らなかった趣味を引き出すことができたという例もある。気づきはユニットごとの連絡ノートと介護記録の中で共有が図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に家族との面談で聞き出したり本人に伺うなどして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートや介護記録に記入し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議で一人一人の利用者様についてモニタリングし、介護計画に反映させている。	現在は1ヶ月に1度、一人の利用者に対してアセスメントとモニタリングを全員で行っている。介護計画の作成はユニットリーダーが行い、ケアマネージャーが総括している。家族会や面会時に介護計画の変更、見直しを説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録の記入をし変化があればその都度報告しあい、記録にも残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と同じ立場になって考え、出来る範囲でケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭などのイベントには地域の方に参加していただき、交流を図っている。また、地元の幼稚園とも年に数回交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期受診を受けている。それ以外にも必要に応じて院外受診を行っている。	系列病院への月1回の定期受診ならびに専門医への受診も職員が支援をしている。看護師は月に20日常勤しており、担当医からは24時間対応で適切な指示をもらっている。また、服薬管理はダブルチェックシステムで行い、確実なものとなるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常や特変があれば直にナースへ報告し指示を仰ぐようにしている。ナース不在時は施設管理者の指示を仰ぐよう徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に医療サポートの限界についてしっかり家族に説明している。	重度化の説明は「できること、できないこと」を契約時に理解してもらい同意書ももらっている。急変時の対応処置も家族の了解のもと同意を得て取り組んでいる。開設以来看取りの実績はなく、今後も看取りへの取り組みは予定していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの訓練はあまり行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路はあまり把握していない。	非難訓練は年2回行っているが、単一的になっており、非難経路の柔軟的対応等に問題があると管理者は考えていて、近々に課題に呼応した訓練を予定している。食糧備蓄は現在2日分ある。備蓄の3日分の確保、地域からの災害時協力体制構築など目標を明確にもっている。	さまざまな想定別に避難訓練を行うことを期待する。

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として常に敬意を払い、丁寧な声かけに努めている。	個人の意思決定を尊重し、身だしなみやお化粧品にも気を遣ってもらう支援に努めている。調査訪問時にも、利用者がゆっくり食べていたため冷めてしまった食事を温めなおしている職員の姿に日頃からの配慮が覗えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	保水の時間にはメニュー表を見て頂き、何が飲みたいか選択してもらっているようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望やペースを大切に職員で協力し合いながら、各々のペースで生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出するときはおしゃれ着に着替えたり、お化粧を施したりと、身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に出かけるときは、利用者様の嗜好を考慮して伺ったり一緒に選んでもらったりしている。また、食事の支度や片づけなども一緒に楽しく行っている。	朝食のメニューは毎日利用者の希望を聞いて前日に決めている。また、食材の買い物も毎日行っていて、同行する利用者もいる。外食は毎月行い、パン外食やマクドナルドが好評だったという。下膳を手伝ったり、リズムカルに包丁を捌いている頼もしい利用者の姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を考慮したうえで提供したり水分が不足しがちな利用者様には工夫して摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後に口腔ケアを全員実施している。		

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導をしている。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導が常習化している。また、排泄チェック表を活用して健康管理にも取り組んでいる。失禁の利用者が日中はリハパンになり、夜間はパット装着になったという改善例もある。夜間は睡眠優先、定時の声掛けなど、それぞれの利用者の状態に合わせて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者様には水分摂取を促したり、下剤投与にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い利用者様と一緒に入浴してもらったり、入浴を拒まれる利用者様にはタイミングを図って声かけしたりと、工夫している。	入浴には時間をゆっくり取ることを主眼に置き、毎日の入浴希望にも応えることができる。苦手な人にも少なくとも3日に1回は入ってもらえるようにしている。マンツーマン介助で安全に配慮している。仲の良い利用者は一緒に入り、入浴を楽しんでいるという。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や顔色が悪かったり、夜間の入眠状態がに応じて居室で休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ナースやユニットリーダーを中心として服薬の管路を行っている。個々の薬については服薬管理表のファイルにて掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことを把握したうえで生け花や畑作り、草むしりなど、役割を持って行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩が好きな方は定期的にお連れしている。また、外出の予定を組む時は場所や食べ物の希望があれば出来る限り希望に沿うようにしている。	毎月行っている外出ツアーは利用者から大人気で、皆次の外出を心待ちにしている。お化粧を施し、おしゃれ着をまとい、いつもと違う気分を味わっている。その時の廊下に飾られた笑顔いっぱいの写真からは、利用者の元気と楽しみの源となっていることが覗えた。	

自己評価および外部評価結果

(3ユニット共通)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はお金の管理が厳しく、施設の方で立て替えたり、管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、家族に電話をしてもらっている。また、年賀状を送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには以前の外出の写真などを掲載したり、季節感を感じる掲示物を張り出したりと工夫している。	利用者が作った季節ごとの貼り絵が廊下の壁を飾り、外出時や外食ツアーでの笑顔に満ちた写真が賑わいを添えている。テーブルには水仙の花が、小さいながらも凛々と咲き、利用者の元気に寄り添っている。掃除では換気も行われ、居心地よく過ごす空間づくりに利用者自らが関わっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士を同じテーブルに配置したり、ソファを数か所に分けて設置して、自由に移動したり過ごせる空間づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具を置いたり、家族の写真やホームでの思い出の写真等を掲示して居心地の良い空間作りを心がけている。	東名高速を窓越しに見渡す利用者の居室には、思い出の写真や、趣味で作ったパッチワークのタペストリーが所狭しと飾られている。使い慣れた筆筒も持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫が感じられた。若い職員に勧められて撮ったプリクラ写真も飾られ微笑ましい雰囲気に満ちていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活用できるような支援を心がけている。		